

貯蓄の状況

1 概況

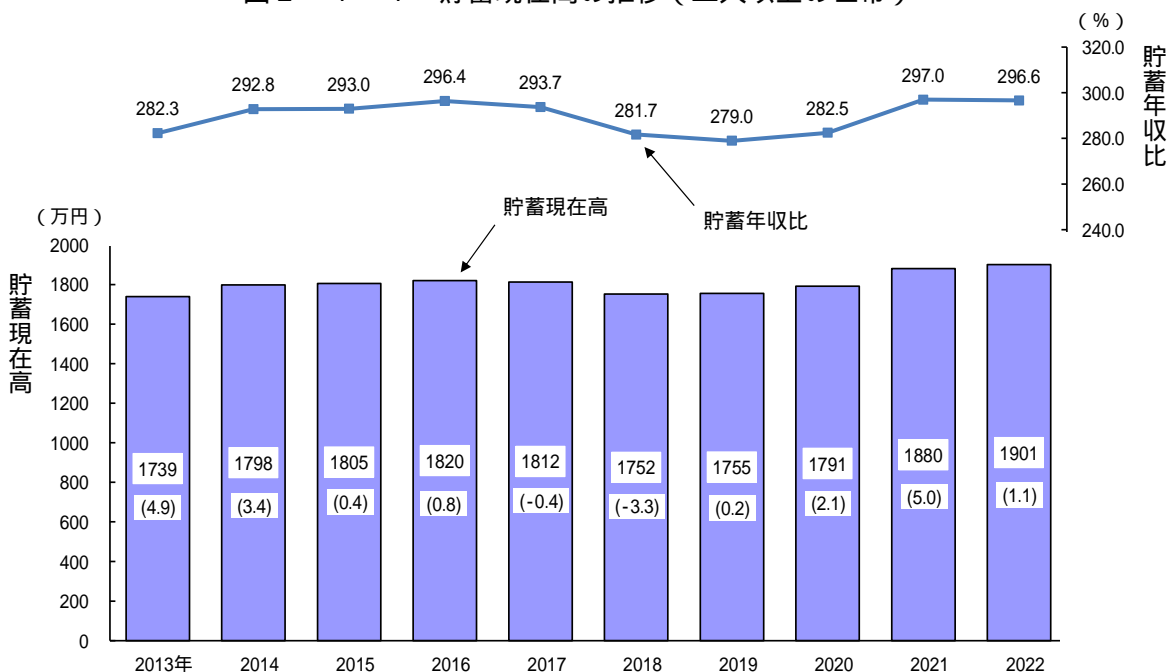
(1) 貯蓄現在高は1901万円で4年連続の増加

二人以上の世帯における2022年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）¹は、1901万円で、前年に比べ21万円、1.1%の増加となり、4年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となっている。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は、1168万円（前年1104万円）となっている。また、年間収入は641万円で、前年に比べ8万円、1.3%の増加となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は296.6%で、前年に比べ0.4ポイントの低下となっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を含めた平均値

（図I-1-1、表I-1-1）

図I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注)()内は、対前年増減率(%)

表I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2013年	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
2014年	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
2015年	1805	616	0.4	0.3	293.0	1054
2016年	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017年	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
2018年	1752	622	-3.3	0.8	281.7	1036
2019年	1755	629	0.2	1.1	279.0	1033
2020年	1791	634	2.1	0.8	282.5	1061
2021年	1880	633	5.0	-0.2	297.0	1104
2022年	1901	641	1.1	1.3	296.6	1168
						(1091)

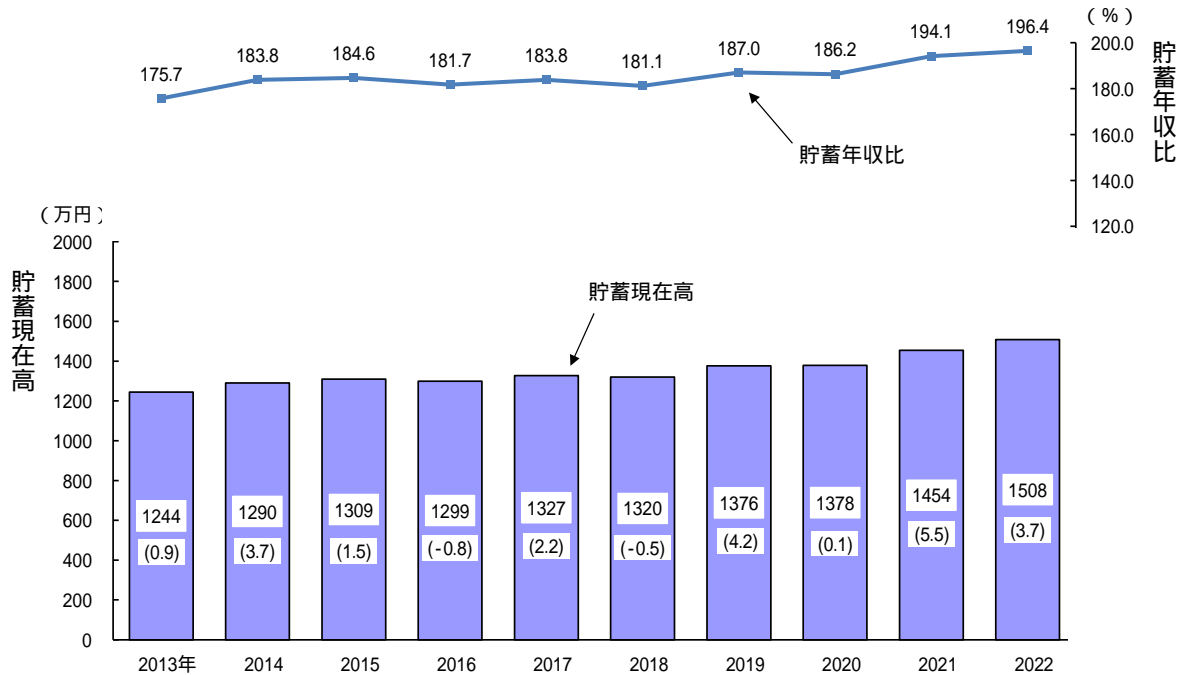
2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。()内は、2022年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合55.9%）についてみると、貯蓄現在高（平均値）¹は1508万円で、前年に比べ54万円、3.7%の増加となり、貯蓄保有世帯の中央値は928万円（前年833万円）となっている。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、貯蓄保有世帯の中央値共に少なくなっている。また、年間収入は768万円で、前年に比べ19万円、2.5%の増加となり、貯蓄年収比は196.4%で、前年に比べ2.3ポイントの上昇となっている。

1 貯蓄「0」世帯を含めた平均値

（図I-1-2、表I-1-2）

図I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2013年	1244	708	0.9	2.5	175.7	735
2014年	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741
2015年	1309	709	1.5	1.0	184.6	761
2016年	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017年	1327	722	2.2	1.0	183.8	792
2018年	1320	729	-0.5	1.0	181.1	798
2019年	1376	736	4.2	1.0	187.0	801
2020年	1378	740	0.1	0.5	186.2	826
2021年	1454	749	5.5	1.2	194.1	833
2022年	1508	768	3.7	2.5	196.4	928
						(880)

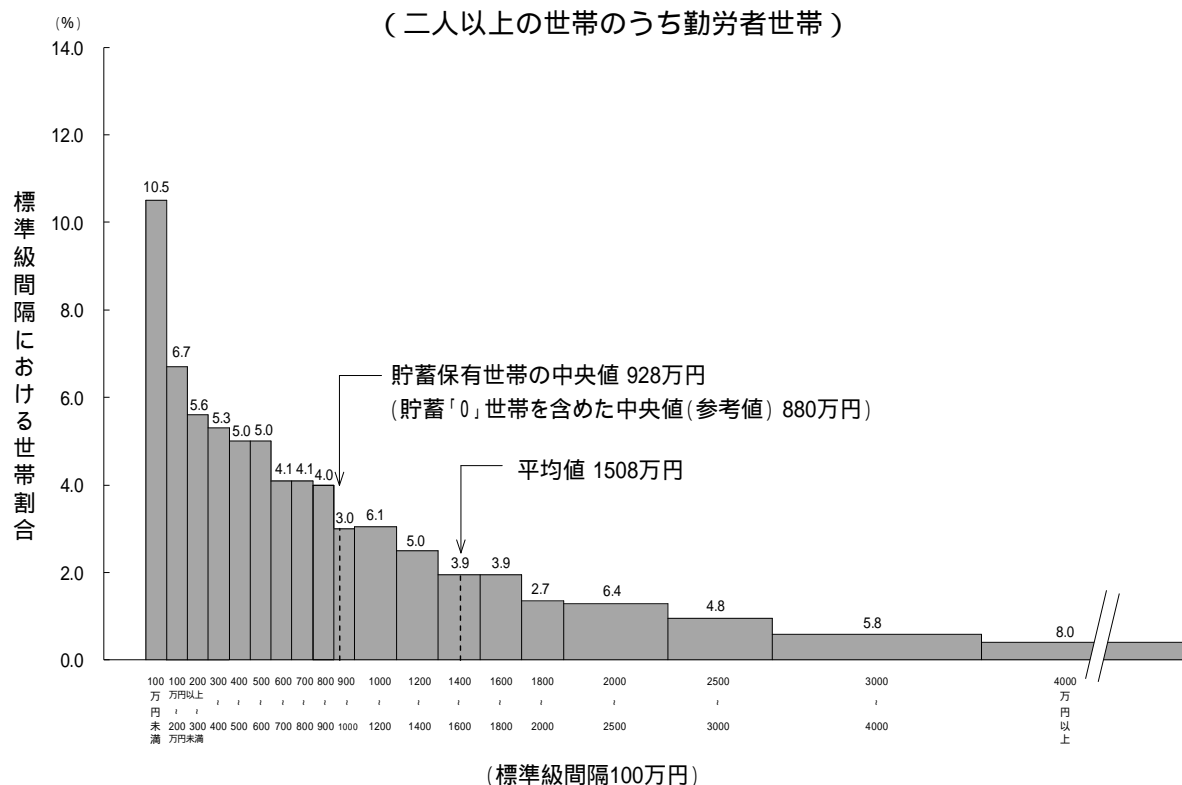
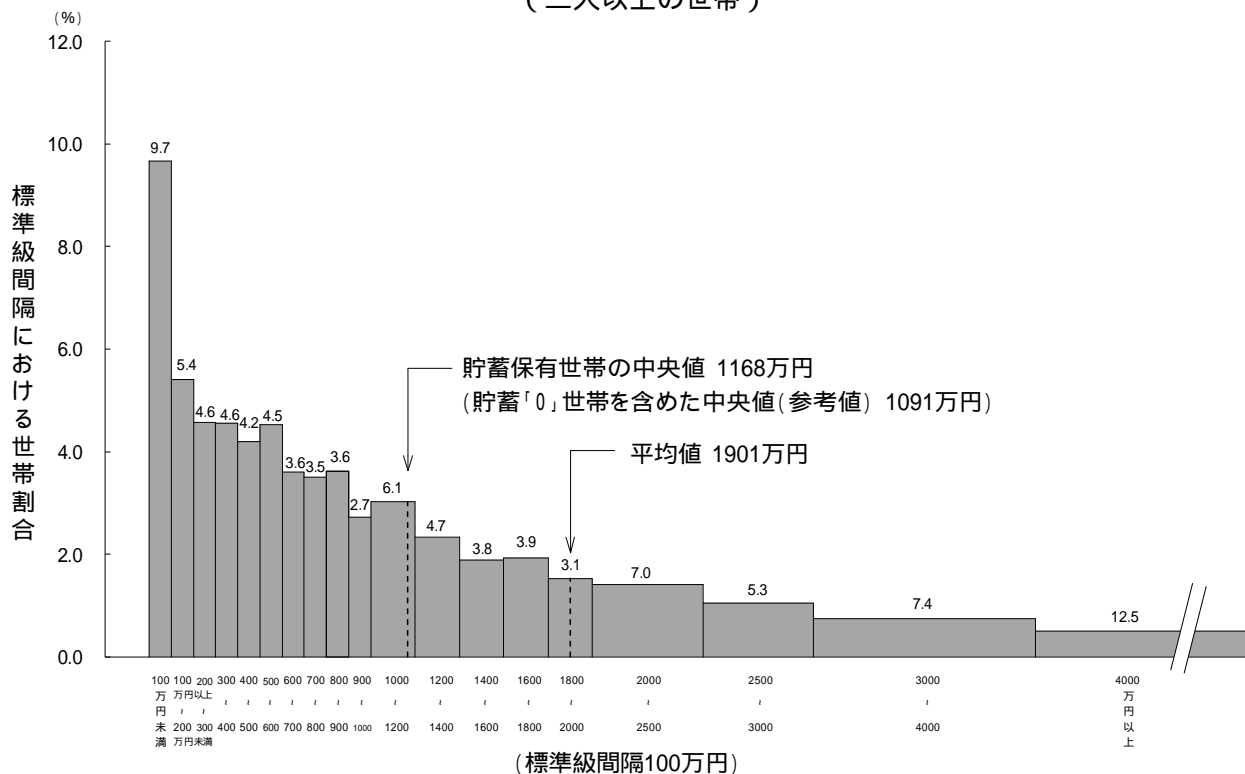
2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。() 内は、2022年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)

(2) 貯蓄現在高が平均値（1901万円）を下回る世帯が約3分の2を占める

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1901万円）を下回る世帯が66.3%（前年67.6%）と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の少ない階級に偏った分布となっている。

(図I-1-3)

図I-1-3 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 2022年 -
(二人以上の世帯)



注) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

2 貯蓄の種類別内訳

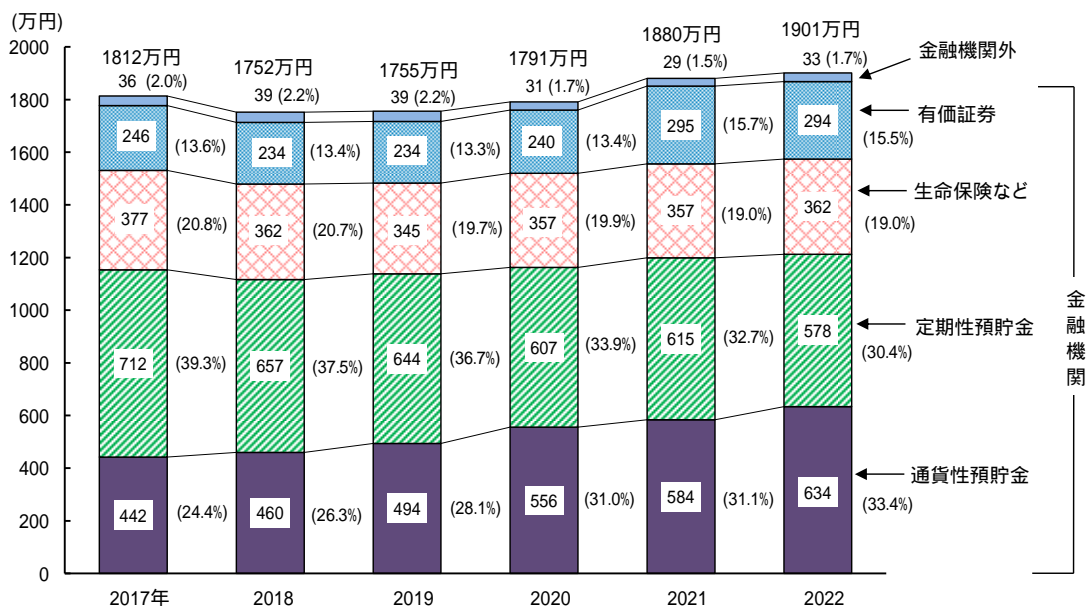
通貨性預貯金は14年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、通貨性預貯金が634万円（貯蓄現在高に占める割合33.4%）と最も多く、次いで定期性預貯金が578万円（同30.4%）、「生命保険など」が362万円（同19.0%）、有価証券が294万円（同15.5%）、金融機関外が33万円（同1.7%）となっている。

2021年と比べると、通貨性預貯金、「生命保険など」及び金融機関外は、増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ50万円、8.6%の増加となり、14年連続の増加となっている。定期性預貯金は、前年に比べ37万円、6.0%の減少となり、2年ぶりの減少となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）

図I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託 金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額 (万円)											
2017年	1812	442	712	377	246	13	-	-	-	36	
2018年	1752	460	657	362	234	11	-	-	-	39	
2019年	1755	494	644	345	234	12	-	-	-	39	
2020年	1791	556	607	357	240	8	123	29	80	31	
2021年	1880	584	615	357	295	7	152	33	102	29	
2022年	1901	634	578	362	294	8	146	35	106	33	
構成比 (%)											
2017年	100.0	24.4	39.3	20.8	13.6	0.7	-	-	-	2.0	
2018年	100.0	26.3	37.5	20.7	13.4	0.6	-	-	-	2.2	
2019年	100.0	28.1	36.7	19.7	13.3	0.7	-	-	-	2.2	
2020年	100.0	31.0	33.9	19.9	13.4	0.4	6.9	1.6	4.5	1.7	
2021年	100.0	31.1	32.7	19.0	15.7	0.4	8.1	1.8	5.4	1.5	
2022年	100.0	33.4	30.4	19.0	15.5	0.4	7.7	1.8	5.6	1.7	
対前年増減率 (%)											
2018年	-3.3	-3.7	4.1	-7.7	-4.0	-4.9	-15.4	-	-	-	8.3
2019年	0.2	0.2	7.4	-2.0	-4.7	0.0	9.1	-	-	-	0.0
2020年	2.1	2.6	12.6	-5.7	3.5	2.6	-33.3	-	-	-	-20.5
2021年	5.0	5.1	5.0	1.3	0.0	22.9	-12.5	23.6	13.8	27.5	-6.5
2022年	1.1	0.9	8.6	-6.0	1.4	-0.3	14.3	-3.9	6.1	3.9	13.8

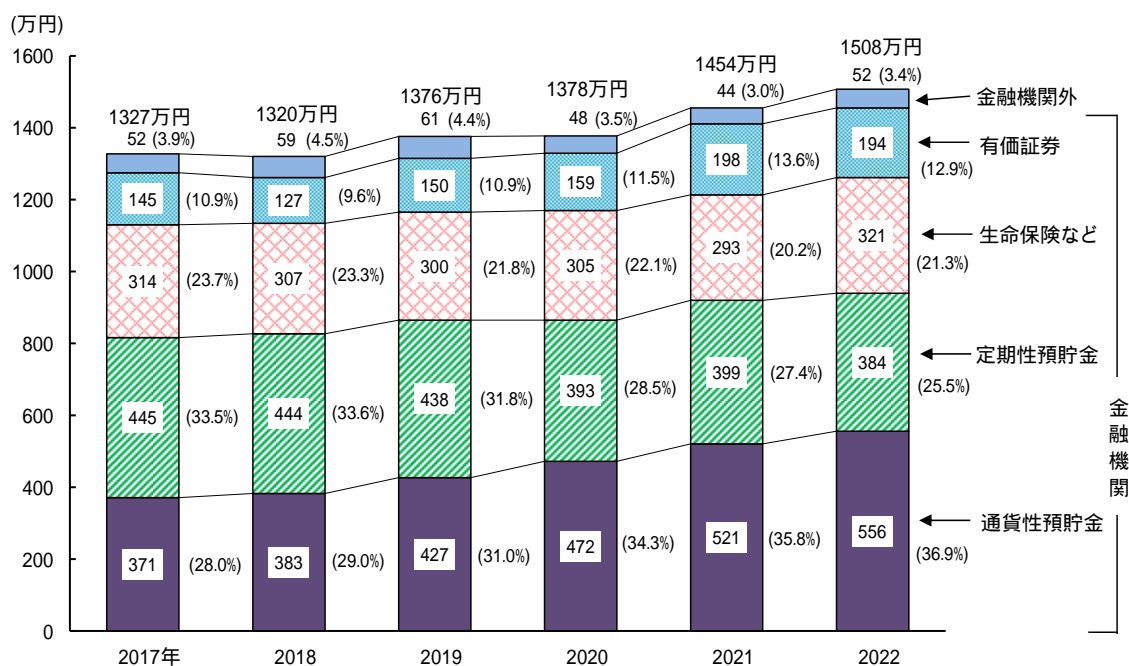
注) 「-」は、調査票の改正により、時系列比較できない部分

このうち勤労者世帯についてみると、通貨性預貯金が556万円（貯蓄現在高に占める割合36.9%）と最も多く、次いで定期性預貯金が384万円（同25.5%）、「生命保険など」が321万円（同21.3%）、有価証券が194万円（同12.9%）、金融機関外が52万円（同3.4%）となっている。

2021年と比べると、通貨性預貯金、「生命保険など」及び金融機関外は、増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ35万円、6.7%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。一方で、定期性預貯金及び有価証券は、減少となっている。定期性預貯金は、前年に比べ15万円、3.8%の減少となり、2年ぶりの減少となっている。

（図I-2-2、表I-2-2）

図I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注）（ ）内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託 ・ 金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額（万円）											
2017年	1327	371	445	314	145	9	-	-	-	-	52
2018年	1320	383	444	307	127	4	-	-	-	-	59
2019年	1376	427	438	300	150	7	-	-	-	-	61
2020年	1378	472	393	305	159	6	82	17	55	-	48
2021年	1454	521	399	293	198	5	106	15	73	-	44
2022年	1508	556	384	321	194	5	91	17	81	-	52
構成比（%）											
2017年	100.0	28.0	33.5	23.7	10.9	0.7	-	-	-	-	3.9
2018年	100.0	29.0	33.6	23.3	9.6	0.3	-	-	-	-	4.5
2019年	100.0	31.0	31.8	21.8	10.9	0.5	-	-	-	-	4.4
2020年	100.0	34.3	28.5	22.1	11.5	0.4	6.0	1.2	4.0	-	3.5
2021年	100.0	35.8	27.4	20.2	13.6	0.3	7.3	1.0	5.0	-	3.0
2022年	100.0	36.9	25.5	21.3	12.9	0.3	6.0	1.1	5.4	-	3.4
対前年増減率（%）											
2018年	-0.5	-1.1	3.2	-0.2	-2.2	-12.4	-55.6	-	-	-	13.5
2019年	4.2	4.4	11.5	-1.4	-2.3	18.1	75.0	-	-	-	3.4
2020年	0.1	1.1	10.5	-10.3	1.7	6.0	-14.3	-	-	-	-21.3
2021年	5.5	6.1	10.4	1.5	-3.9	24.5	-16.7	29.3	-11.8	32.7	-8.3
2022年	3.7	3.2	6.7	-3.8	9.6	-2.0	0.0	-14.2	13.3	11.0	18.2

注）「-」は、調査票の改正により、時系列比較できない部分